



市長モリテツの  
ほっとトーク

October 2022

## 広げよう 農福連携

— 「農」を通じた共生社会の実現 —

三田市長 森 哲男

豊かな恵みを誇る三田の「農」ですが、今、三田の農業を取り巻く環境は厳しさを増しています。農業者の高齢化、担い手不足、鳥獣被害、農地の遊休化、ため池など農業施設の老朽化などです。現状を打開し、新たな三田の「農」を創出するため、今後10年間で計画期間とした第5次三田市農業基本計画を策定しました。本計画では、新たな目標として「農を楽しむ暮らしを広げる」を掲げました。それは、さまざまな形で農業を始める、関わる人を増やすことで、農業・農村を活性化させることです。

その取り組みの一つが「農福連携」です。それは、障害者などが農業分野で活躍することを契機に、自信や生きがいを持って、社会参画を実現していくものです。高齢化や担い手不足、耕作放棄地の拡大など、課題が深刻化する農業分野に対し、福祉分野は障害者の就労機会や収入の確保が重要となっています。農業という働く場と福祉が持つ人材を有効活用して、お互いの課題解決を目指します。

現在、市内ではJAが仲介し、福祉事業所に枝豆や白菜の収穫作業の委託を行うとともに、地域の集落営農組織に除草作業な

どや直売所での販売業務などを委託していますが、本計画では令和8年度に7件、13年度には15件の事業件数を目指しています。

この目標を達成するためには、両者のギャップを埋めることが必要です。例えば、農家の要望は、①教えなくても任せられる即戦力が欲しい、②忙しい時期に集中して手伝って欲しい、③こちらの作業時間に合わせて来て欲しい。それに対し、福祉事業所には、①初心者でも取り組みやすい仕事が欲しい、②年間を通して安定した仕事が欲しい、③施設の開所日で時間内にできる仕事が欲しい、という要望があります。それぞれの実態や要望を理解し合いながら、歩み寄る努力が求められます。

市も、農業関係者や福祉関係者だけでなく、多くの市民に農福連携に取り組みきっかけづくりとなる研修やワンストップの相談窓口の設置などにより、農福連携を後押ししていきます。

三田の農産物は多くの消費者に愛されています。三田の農村風景は日本の原風景とも言える素晴らしい景観です。多くの市民が「農」を通じて、つながることを目指してまいります。

### Mayor's Photo Diary



8月19日 子ども記者が市役所を来訪。子ども街新聞の執筆を視察すると急な質問を受け取材対応



8月29日 兵庫ブレーバーズの「こども夢花火ナイター」で挨拶。選手に応援を送り花火を観賞



9月12日 画家・大石輝一氏の没後50年に、親族から絵画「初秋の金閣寺」を寄贈いただいた